

No 14

Japan Handball Association



<input type="checkbox"/>	社会人
<input type="checkbox"/>	学生
<input type="checkbox"/>	高専
<input type="checkbox"/>	高体連
<input type="checkbox"/>	中体連
<input type="checkbox"/>	小学生

<input type="checkbox"/>	全国大会
<input type="checkbox"/>	ブロック大会
<input type="checkbox"/>	都道府県大会

<input type="checkbox"/>	男子
<input type="checkbox"/>	女子

試合番号	函館大学-男7
------	---------

# ハンドボール

年月日	2023年7月26日(水)
大会名	令和5年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会

## 公式記録用紙

A	法政大学第二高等学校										愛媛県立新居浜工業高等学校					B
都道府県	北海道		市町村	函館市			会場	函館大学アリーナ					回戦	1回戦		
前半	A	B	最終結果	A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7m追加シフト	A	B		
7m得点/総数	3/3		チームタイムアウト			チームタイムアウト			B		7m得点/総数					
			1	2	前3				1	2	3	2/5				
			29	10					1328	1523	1911					

No.	法政二	G	W	2'	D	DR	No.	新居浜工業	G	W	2'	D	DR
1	二階堂 恭世						1	鈴木 颯真					
2 c	岡本 飛鳥	3		1			2	青木 拓己					
3	阿部 純誠	5					3	藤田 遼人	3		1		
4	瀧川 雄翔	2					4	安藤 瑠希	2				
5	前澤 大輝	1		1			5	伊藤 脩楓					
6	松本 想	2					6	近藤 佑樹	2				
7	山本 樹	5					7 c	西原 風斗	5				
8	佐藤 敬悠	1					8	野田 真斗	1				
9	竹中 友哉	4					9	山川 航汰	5				
10	松尾 進之介	3					10	村上 幸晟			1		
11	守屋 勝司						11	藤田 陽祐	3				
12	丸山 兼秀						12	高科 吉宗					
13	中村 光希	1					13	西川 正真					
14	平良 響	2					14	宗次 烈士					
監督A	寄 修平						監督A	瀬良 研一					
役員B	小寺 勝矢						役員B	渡部 秀祐					
役員C	加藤 光流						役員C	青山 冬龍					

A	チーム役員A署名										B			
特記事項														

レフェリー	萩原 佳明	清水 健太		
T D	永春 文義	藤澤 賢治		
M O				

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入



1/0 12

令和5年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会  
高松宮記念杯第74回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

ハンドボール

試合結果・戦評報告書

競技日	2023年7月26日(水)		会場	函館大学	
種別	少年男子		回戦	1回戦	
チーム名			チーム名		
法政大学第二高等学校			県立新居浜工業高等学校		
得点合計	小計		小計	得点合計	
29	11	前半	13	21	
	18	後半	8		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			

戦評
<p>今大会、函館大会会場の第1試合、両校ともに緊張した表情での試合開始となった。高いディフェンスラインを敷く法政二高は、思うようにボールを回せず慌てる新居浜工業からボールを奪い、足を使った攻撃で得点を重ねる。対する新居浜工業は、相手の動きをじっくりと受け止める6-0ディフェンスから確実に得点を重ね、開始5分⑦西原のディスタンスシュートで4対4の同点とする。新居浜工業は、その勢いのまま⑩山川の速攻でついにリード。法政二高は、退場者を出すものの、⑫丸山のナイスセーブで相手に主導権を握らせない。13分、1点リードの新居浜工業は、チームタイムアウトを要請。戦術を確認し、14分ついに2点差とする。しかし、法政二高は、ディフェンスの集中を切らさず、21分には7mTで同点に追いつく。新居浜工業は、⑫高科のナイスセーブで追いつがる法政二高をおさえ、2点差のまま前半を終了する。</p> <p>後半、早々に追いつきたい法政二高は、足を使った高いディフェンスでボールを奪いにかかると、ルーズボールに飛び込むなど、今大会への執念を感じさせるプレーが出るなど、徐々に法政二高のペースになっていく。⑨竹中の速攻で同点に追いつくと、応援団もさらにヒートアップ。②岡本の2連取でついに逆点する。高い位置でのディフェンスに、思うように動けなくなった新居浜工業は、何とか打開を図るが、無理に割り込もうとする展開が増える結果となってしまった。これに対し、法政二高は、試合開始から意識していたPVを使った展開が機能し始めたのに加え、速攻で得点を重ね、15分には③阿部の得点で4点差とする。新居浜工業は、ここで2度目のチームタイムアウトを要請するが、流れを引き戻すことができず、18分には24対18となりたまたま3回目のチームタイムアウトを要請。</p> <p>新居浜工業は、その後も①二階堂の好セーブに阻まれるなど、立て直すことができず、最後まで走りきった法政二高に29対21で涙をのんだ。</p>

記入者	高田 智史
-----	-------